



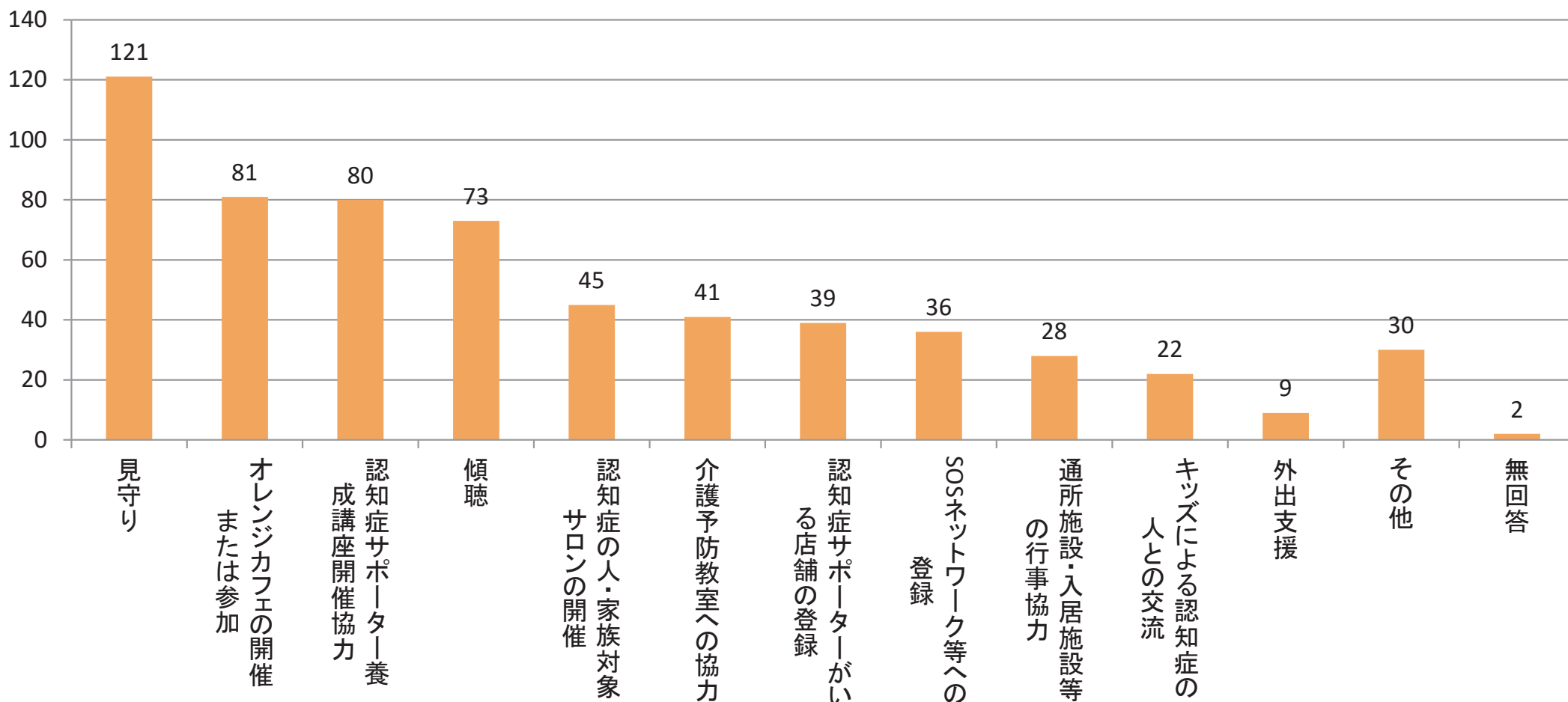
# 認知症サポーターの活動状況



# 認知症サポーターの活動状況について

- 認知症サポーターの活動状況については、「見守り」が121自治体で最も多く、次いで「オレンジカフェの開催または参加」81自治体、「認知症サポーター養成講座の開催協力」80自治体、「傾聴」73自治体と続いている。
- 「その他」については、「搜索模擬訓練の開催や参加・協力」や、イベント等への参加も含めた「啓発・広報活動」といったものがみられた。

※ N=214（認知症サポーターの活動を把握している自治体）



# ゴールドサポーターの多彩な自主活動

## (京都府綾部市) 活動事例①

- 「認知症サポーター」、「シルバーサポーター」、「ゴールドサポーター」を養成。
- ゴールドサポーターは、傾聴ボランティアや認知症予防教室の補助員などとして活動。高齢者の生活を支える自主活動を続々と誕生させ、地域の助け合いの担い手として活躍。

### 各サポーターの活動内容

#### 【認知症サポーター】(認知症の理解者)

- ・ 地域での高齢者とのエピソードについて「ハッピーカード」に記入し提出。支援の必要な高齢者の情報収集につなげる。

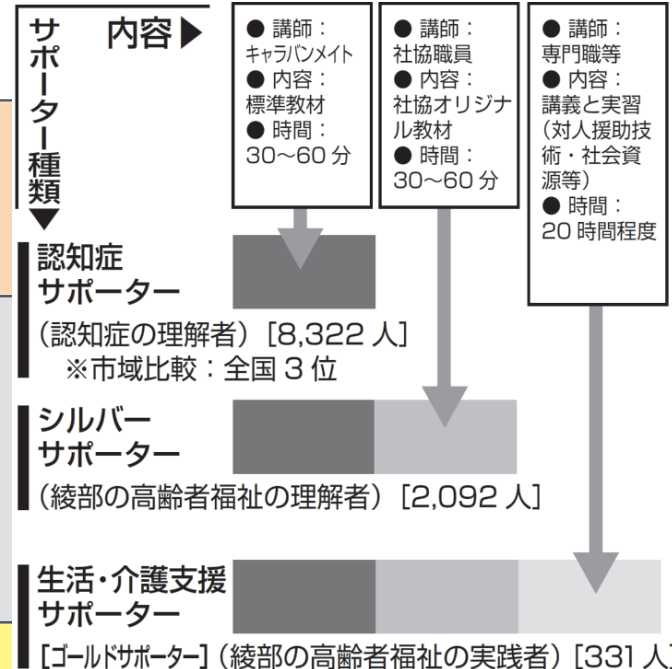
#### 【シルバーサポーター】(高齢者福祉の理解者)

※成年後見制度や悪質商法についての研修も受講

- ・ 地域での見守りや困っている人への対応。
- ・ 関係機関への情報提供などの実施。
- ・ 店舗や企業は「シルバーサポート店」として登録。(店頭に掲示)

#### 【ゴールドサポーター】(高齢者福祉の実践者)

- ・ 傾聴ボランティアとして訪問。傾聴活動のなかで得た情報をケアマネと共有。
- ・ くつろぎ移動足湯事業の実施。(使用していない訪問入浴車を活用して足湯の出前)  
※ 地域で孤立しがちな高齢者を把握し、関係者等との情報交換を経た上で実施。
- ・ 認知症予防教室の運営補助。(認知症予防についての研修を受け活動)
- ・ 自主グループによる認知症カフェの運営。  
※ 介護家族のつどい、見守り活動、認知症の人と好きな料理を作って食べる会、閉じこもり防止のためのイベント開催など。



# 「もっと知りたい」と始まったステップアップ研修から広がる活動

## (熊本県水俣市) 活動事例②

- 認知症サポーター受講者の「もっと知りたい」「ここがわかりにくい」の声に応えようとステップアップ研修を実施し、さまざまな活動につなげている。
- 地域包括支援センターへの情報も増え、安心して暮らせる地域づくりに貢献。

### サポーターの活動に向けた支援

- 受講者へのアンケート用紙を活用してステップアップ研修の情報提供。
  - ・ サポーター養成講座受講者アンケート用紙の一部に、氏名、連絡先の欄を設け、情報提供希望者に記入してもらい登録。

★アンケート用紙の、連絡先を記入する小さな欄が、研修や活動への窓口に！

☆水俣市では、自分にできることならお手伝いしたい！とされている方を登録させていただき、今後、認知症に関する学習や事業等の情報提供を行いたいと思います。

登録をご希望される方は、下記にご連絡先をご記入ください。

氏名	住所	電話	メールアドレス
----	----	----	---------

※ご記入いただきました個人情報は、認知症に関する事業等の情報提供以外には一切使用しません。

### サポーターの活動内容

- オレンジカフェでのボランティア活動。
- 傾聴ボランティア講座受講を経ての日常的な見守り・傾聴活動。
- 市民後見人講座受講を経て、社協の法人後見の支援員として活動。
- SOSネットワークへの登録。地域での検索模擬訓練への参加協力。
- 地域で実施するサポーター講座への参加、近隣への声かけなど。
- 認知症の人やその家族を対象とする家族会での活動。
- サポーターがいる店として、ステッカーを店舗や営業車に貼付。

# 網の目状の地域見守りシステムの担い手として活動

(熊本県菊池市) 活動事例③

- 銀行、コンビニエンスストア、薬局、新聞販売店などの店舗や個人宅において、認知症地域見守り協力者、協力店である印「大きなオレンジリング」を掲示。
- 夜間の見守りなど、時間、年齢層を問わず幅広い見守りの仕組みの担い手として活躍。

## 地域見守りシステムの担い手として活動

### ○認知症サポーターの主な活動内容。

- ・ 大きなオレンジリングまちいっぱい運動への協力。(店舗等へ見守り協力店登録依頼等)
- ・ 傾聴ボランティア養成講座を受講し、ボランティアグループを立ち上げて活動。
- ・ キャラバン・メイトの演劇班に参加して、小中学校でのサポーター講座を支援。
- ・ 認知症カフェのボランティアとして参加。
- ・ サポーター講座への協力。
- ・ 夜間の見守りサポーター(※)として活動。

※ 認知症の人の夜間の行方不明を防止する目的で、夜間に活動している人や事業所にサポーターになってもらう取り組み。

### 【参考】多業種、多職種によるサポーターの養成や活動の支援

- 「認知症の人とともにくらす会“きくち”」 → 主な活動:サポーター養成講座への協力  
医師、歯科医師、市役所職員(地域包括支援センター職員)、介護職員、民生児童委員、一般市民などが会員
- 「菊池市認知症施策総合推進検討委員会」 → 主な活動:サポーター講座の展開、大きなオレンジリングまちいっぱい運動、夜間見守り調査  
医師会、精神科医、くらす会、認知症介護指導者、社会福祉協議会、介護支援専門員協会、民生児童委員、女性の会、小・中学校校長会の各代表が参加
- 「高齢者地域見守りネットワーク「ほっとネットきくち」」 → 主な活動:サポーター講座を受講した店舗等に対し活動への参加を要請  
区長会、消防団、女性の会、老人クラブ、商工会、新聞販売店、銀行、タクシー会社、農協、特養、老健施設、GH、警察、医師会など の団体・機関が加入

## スキルをつけたサポーターは地域で幅広く活動

### (広島県尾道市) 活動事例④

- 「認知症高齢者見守り事業」の「やすらぎ支援員」としての活動や、見守りネットワークへの登録、認知症カフェの運営に関わるなど、幅広く活動。
- キッズサポーターは高齢者施設の訪問。高校生サポーターはサポーター講座でも活躍。

### 「やすらぎ支援員」として認知症の人と家族を支援

- 尾道市社会福祉協議会の「認知症高齢者見守り事業」の「やすらぎ支援員」として活動。
  - ・ 在宅で暮らす認知症高齢者の自宅を訪問。（おおむね月2回）
  - ・ 認知症高齢者の話し相手や見守り。
  - ・ 家族の方に対する相談。

### サポーターの活動内容

- 認知症サポーターの主な活動。
  - ・ サポーター認定所として登録。（サポーターがいる事業所、店舗、個人の自宅・車の印）
  - ・ 市独自のサポーターステッカーを車やバイク・自転車に貼り、認知症理解の推進・啓発。
  - ・ 「おのみち見守りネットワーク」への登録。SOS情報メールを配信。
  - ・ 年1回SOS模擬訓練に参加し、声かけ方法や通報の訓練を実施。
  - ・ 市内7カ所でオレンジカフェを開設。オレンジメイトとして月1回の運営。
- キッズサポーターの活躍。
  - ・ 学校の授業としてサポーター講座を実施し、高齢者施設へ訪問。
  - ・ 高校生サポーターは、メイトとともにサポーター講座に参加してスタッフとして活動。

# 900人の意欲ある「高齢者安心見守り隊」の自主活動

## (三重県松坂市) 活動事例⑤

- 認知症サポーター養成講座修了者に呼びかけ、「高齢者安心見守り隊養成講座」を開催し、地域での活動に意欲のある人を見守り隊に登録。
- 現在900人の「高齢者安心見守り隊」が、自分たちにできることを自主的に実施。

### 高齢者安心見守り隊の活動

- 認知症サポーターが自分なりにやれることを自然なかたちで実施。

- ・ 認知症地域資源マップづくり。
- ・ 見守り、声かけ、ごみ出し支援、傾聴、外出支援。
- ・ 通所施設、入所施設等の行事への協力。
- ・ サポーターがいる店舗の表示。(店頭ステッカー貼付)
- ・ キッズサポーター講座への協力。(寸劇の手伝い)
- ・ 介護予防教室等への協力。
- ・ オレンジカフェのサポート。
- ・ SOSネットワークへの参加。(見守り・声かけ訓練)
- ・ カーテンがしまったままの家、新聞受けに新聞があふれている家、様子のおかしい人、具合の悪そうな人を発見した場合、地域包括支援センターへ連絡。

#### 認知症サポーター養成講座

ねらい

↓  
受講票により登録  
(認知症支援に関する市の事業の案内などを行う)

- ・ 認知症を正しく知る
- ・ 認知症の人や家族を応援する気持ちをもつ

↓  
受講者に参加を呼びかける

#### 高齢者安心見守り隊養成講座

ねらい

↓  
地域支援活動に意欲のある人が登録

- ・ 自分なりにできることを行う。

↓  
松坂市高齢者安心見守り隊として活動

# 住民メイトとサポーターの支え合いのまち

## (秋田県羽後町) 活動事例⑥

- メイトとサポーターの自主運営による拠点と組織を立上げ、多彩な活動を実施。
- 認知症の人や家族、子どもから高齢者まで世代間交流による支え合いのまちづくり。

### 多種多様な住民キャラバン・メイトの養成

- 民生児童委員、郵便局長、商店主、タクシー運転手、高校教諭、住民、高校生など多種多様なキャラバン・メイトが養成されたことで、それぞれの立場での活動が広がる。
  - ・ 高校生メイトがオリジナルの紙芝居を作って上演するなど、小中学生向け講座へ協力。

### 70代中心の女性サポーターによる啓発・予防活動

- 記憶など検査への女性参加者(70代中心)全員がサポーターになり「若竹元気くらぶ」を結成。
  - ・ 「認知症予防・介護予防体操」を作成。サポーター講座や老人クラブにおいて体操を実施。
  - ・ 地域包括支援センター主催の認知症予防プログラム事業(ウォーキングや旅行など)への協力。
  - ・ 重度要介護者の自宅での話し相手や、認知症の人がいる家族へ関連する情報をお届け。
  - ・ 催し物の会場で、紙芝居や健康クイズ、ゲーム大会などを通じて認知症の啓発や予防を展開。

### 活動の連携・集いの場「キャラバン・ラジオ屋」

- メイトとサポーターによる活動拠点「キャラバン・ラジオ屋(電気店の空店舗を利用)」を開店し、「うごまちキャラバン・メイト認知症サポーター協会」を発足。
  - ・ 「集いの場」を運営。初期段階の認知症の人や若年性認知症の人がスタッフとして活躍。専門職による総合相談やリサイクルバザーも実施。
  - ・ 会長が農園を交流の場として開放。キッズサポーター、高校生メイト、高齢者、認知症の人、介護サービス事業所の利用者などが、農作業を通じて交流。農業経験のある認知症の人が活躍。

# ステップアップ・サポーターによる啓発活動、認知症カフェの運営

(福岡県福岡市) 活動事例⑦

- 自助、互助の地域づくりを目指し、地域の実情に合わせ認知症サポーター養成講座を実施。
- 受講者たちの地域での活動意欲に応えるため、ステップアップ講座が実施され、受講者による地域カフェの運営など、認知症サポーターの自主活動につながっている。

## 認知症啓発劇団を結成し、啓発活動

- 劇団を結成し、寸劇を通して認知症への理解を広げる啓発活動を実施。
  - ・ サポーター養成講座。
  - ・ 地域の文化祭。
  - ・ 介護事業所のイベント。
  - ・ 認知症介護講座。等に参加し、普及活動に協力。

## 【ステップアップ講座の内容】(平成24年度の例)

第1回	地域で支え合うことを考える
第2回	本人を支えるための世帯支援を考える
第3回	地域発 ～かかわりあえるまちづくり～
第4回	私たちにできることとは ～さあ、一歩踏み出そう～

## 地域カフェ（認知症カフェ）の運営

- ステップアップ講座受講者が「カリキュラム化されていない自由気ままなやわらかい雰囲気の場合（喫茶店やカフェのような気軽さがある場）が必要」と提案し、カフェスタイルの集いの場を運営。
  - ・ 公民館で月1回の運営。毎回約100名が来店。利用は無料。
  - ・ 毎回20～30名のサポーターがボランティアとして自発的に参加。
  - ・ カフェ終了後は認知症サポーター同士の交流の場として活用。
  - ・ 乳児院の子ども達や障害者施設の利用者も利用。

## サポーターからボランティア活動 そして見守り体制の構築へ

(宮城県柴田町) 活動事例⑧

- 認知症サポーター養成講座の受講後、さらに知識を深めたい人、サポーターとして活動したい人を対象にフォローアップ研修を実施。
- 研修受講後のボランティア活動が、地域での見守り体制の構築へとつながっている。

### フォローアップ研修の実施

- フォローアップ研修において、日常的に見守りの意識を持ってもらいたいことを伝え、ボランティア活動などについての案内を実施。

### サポーター自ら楽しみながらの活動

- 「介護家族の会」、「認知症の方とその夫婦の会」、「ダンベルサークル」などへの参加。
- 町内飲食店にて「高齢者のランチを楽しむ会」の実施。
- グループホームを訪問し、入居者と「ご近所付き合い」を意識した交流の実施。

### 地域の見守り体制構築へ

- さまざまな会に参加するなかで、必要な方に見守りや傾聴活動を行い、会の活動をサポート。
- 地域包括支援センターとも連携を図り、地域での見守り体制の構築・強化につながっている。

# 認知症を学び多くの人に伝え、家庭で実践するキッズ・サポーター

(滋賀県長浜市) 活動事例⑨

- 平成22～24年度の3年間で市内の全小・中学校で認知症サポーター養成講座を実施。
- 学んだことを沢山のの人に伝えたいと、キッズ・サポーター達の活動が広がる。

## 小学生が保護者に認知症を伝える授業

- 小学6年生児童が、認知症サポーター養成講座(以下、サポーター講座)を受けた後、子どもたち自ら、翌月の授業参観日に保護者を対象に認知症の知識を伝える70分の授業を実施。

- ・ 「認知症高齢者を理解するための紙芝居」
- ・ 「認知症という病気についての説明」
- ・ 「認知症高齢者への対応の良い例、悪い例の寸劇」
- ・ 「認知症に関するクイズ」
- ・ 「親子が一緒に話し合うグループワーク」

などが、すべて子どもたちの手によって進行。

- 保護者の感想。

- ・ 「認知症について初めて知ることもあり、正しく理解できた」
- ・ 「症状に合わせた対応の重要性がわかった」

など

- 子ども達は。

- ・ 「学んだことを人に伝えることの大変さ」
- ・ 「伝えるために自らも学ぶことの大切さ」

を経験し、意義深いものとなった。